

<様式1>

令和3年度 さいたま市立与野南中学校 自己評価書

校長 吉原 誠士



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

「力がつく学校 力のある学校 感動いっぱい 与野南中」のスローガンのもと、学校教育目標「進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒」の具現化を目指し、今年度の学校経営方針として以下の(1)から(4)のキーワードを定め、日々の教育活動に取り組んできた。

- (1)「確かで豊かな学び」…特別活動を核にした生活面の指導を継続、発展させることにより、学校課題研修に基づいた生徒の学力と教員の授業力アップの試みを改善、継続させる。
- (2)「心身共に健康」…各教科、学級活動、道徳教育、学校行事等を通じて、知・徳・体のバランスがとれた生徒の育成を目指すとともに、積極的な生徒指導ときめ細かい教育相談を組織的に展開する。
- (3)「潤いのある環境」…生徒が落ちついて学習、生活できる校舎内外の環境整備を常に心がけ、生徒の安全確保のために、定期・不定期に施設・設備の点検を行うとともに、中央区の花であるバラを積極的に植樹して環境整備に努める。
- (4)「安全第一」…新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目指し、学校の生活様式を踏まえた様々な対応を実施して拡大防止に努める。いじめの早期発見及びいじめの対処に組織的に素早く対応する。
- (5) 教職員が学校業務改善計画を立て、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る。

2 評価結果について

- (1) 毎定期テスト後のやり直しテストの実施、話し合い活動の実施を全教員、全学級で取り組んだ。実施した生徒アンケートでは「学校の授業はわかりやすい」という回答が95%、保護者アンケートでは90%の回答が得られた。また各教科でICT、特にタブレットを活用する機会を積極的に設けた。
- (2) 生活様式の制限はあるが、授業や行事の実施の仕方についての議論を重ね、時期や方法を工夫した。週1回実施の生徒指導委員会と教育相談委員会だけでなく、情報交換を積極的に行い、具体的に素早く対応できるように行った。いじめの対応については、発生した件を積極的に認知し、その後の解消に向けての積極的な対応を各部署に促した。不登校の件数としては第2学年で人数が多く、対象学年と相談室だけでなく、学校全体としてさらには外部団体とも引き続き連携を深め、個に応じた指導を推進したい。
- (3)「学校生活は楽しい」という生徒の回答は92%、保護者の「学ぶ環境を整え、きれいな学校づくりを進めている」という回答も97%を超えており、今年度の目標は達成できた。
- (4)「生徒の安全を第一に考え、教育活動を進めている」という保護者の回答は97%を超えた。また昨年度より新設の「学校は、6月から現在までの教育活動中、感染症拡大防止に対する配慮を十分に行っている」という回答も生徒で97%、保護者96%であった。毎日の登校時、正門で消毒作業と検温チェックを続けてきた成果であると考ええる。
- (5) 管理職からの声かけや、各教職員が在校時間を意識したことにより、1学期間と2学期間を比較して、在校時間80時間以上の教職員の延べ人数の割合が、2学期には6割減少した。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

昨年度より開始した「生徒指導」「教育相談」「特別活動」の3分野の研修体制を、さらに改善を重ねて充実させていき、教職員の縦と横のつながりや関係を強化し、学校全体としての指導力を高めていきたい。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。